

エコアクション 21

環境経営活動レポート

活動期間

2019年3月21日～2020年3月20日



 **EMIYAホールディングス**

(旧 株式会社エミヤ)

2020年7月31日

目 次

1. 環境経営方針	1
2. 事業活動の概要	2
3. 実施体制	3
4. 中期環境経営目標	4
5. 環境経営活動計画	5
6. 環境経営目標と実績	7
7. 取組評価と次年度取組	8
8. 環境経営活動の取組記録	10
9. 環境法規の遵守状況と関連事項	15
(1) 環境法規の遵守状況	
(2) 環境法規等違反による訴訟の有無	
(3) 環境法則に関連した苦情・要望等の有無	
10. 代表者による全体評価と見直し結果	

1. 環境経営方針

【基本理念】

株式会社エミヤは、電気設備資材の卸売業として、電気工事業界・通信業界・住宅業界へ照明器具をはじめとする電気設備機器・住宅設備機器を提供してまいりました。これらの事業活動は、オフィスビル・公共施設・住宅などの建築物や道路・通信網などの社会基盤整備へと直結しており、資源やエネルギー消費に及ぼす影響は多大です。従って、環境負荷低減への取り組みが当社の果たすべき社会的責任と認識し、継続的な環境負荷の軽減に努め、社会に貢献します。

【行動方針】

1. 事業活動を環境側面から見直し以下を重点項目として実施します。
 - (1) 業務のミス・ロス、クレームを削減して資源とエネルギーのムダを排除します。
 - (2) 省エネルギー・創エネルギー・蓄エネルギー機器、省資源対応の電気設備資材を提案販売することにより、低環境負荷社会の構築に貢献します。
 - (3) 3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、産業廃棄物の削減を行います。
2. 環境マネジメントシステムを確立し、定期的に見直しを実施し、継続的な改善を行います。
3. 事業活動を行うにあたって、関連する環境の法規、条例及びその他の規制事項を厳守します。
4. 全員参加による環境保全活動を実施します。

制定 2008年12月22日

改定 2012年 4月11日

改定 2019年 5月27日

株式会社 **エミヤ**
代表取締役社長 **三神 司**

2. 事業活動の概要

【1】事業所名 及び 代表者

会 社 名 株式会社 エミヤ【2020.3.21より株式会社エミヤホールディングスへ社名変更】
代表者名 代表取締役社長 三神 司
所 在 地 〒003-0030
北海道札幌市白石区流通センター7丁目8番1号
U R L <http://www.emiya.com/>

【2】環境管理責任者 及び 担当者

環境管理責任者 村井 弘幸
事務局責任者 埴田 奈津子

【3】事業内容

電気工事材料及び建築資材の販売、家庭用電気製品・電気通信機器空調機器の販売、
暖房機器・昇降機器・衛生・給排水設備機器の販売、太陽光発電施工、介護用品のレンタル
及び販売、介護リフォーム、住宅リフォーム

【4】事業規模

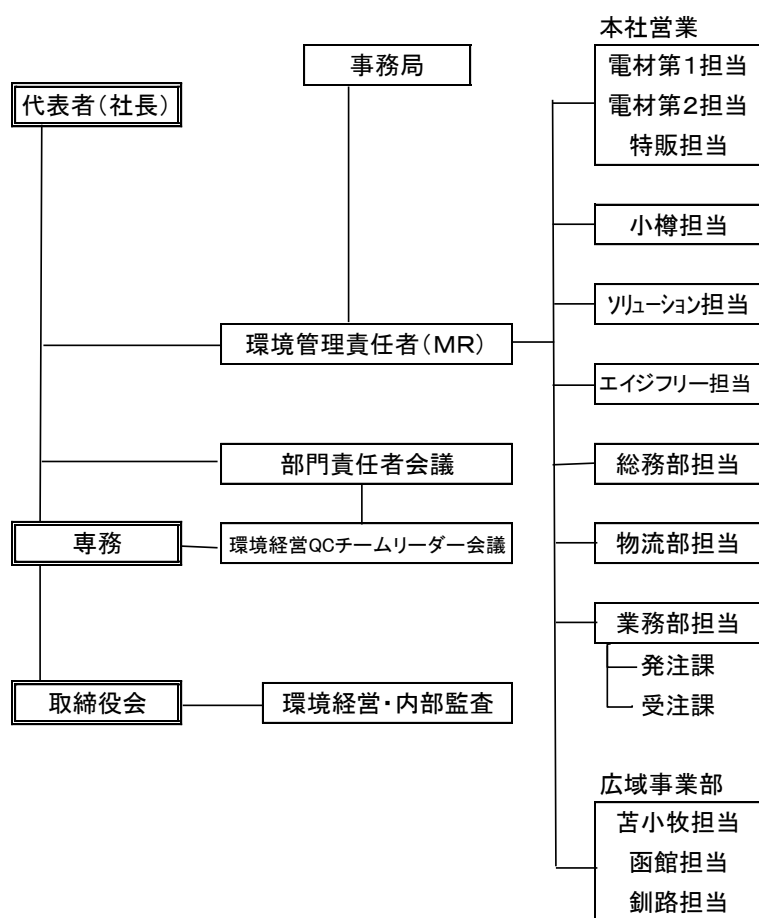
活 動 規 模 2019年度（2019年4月～2020年3月）
売 上 高 97億66百万円
従 業 員 135名
床 面 積 12,183.73㎡
年間工事件数 20件

【5】対象事業所

札 幌	〒003-0030	札幌市白石区流通センター7丁目8番1号
釧路営業所	〒085-0003	釧路市川北町4番17号
苫小牧営業所	〒053-0006	苫小牧市新中野町3丁目6番11号
函館営業所	〒041-0824	函館市西桔梗町589-49
小樽営業所	〒047-0013	小樽市奥沢2丁目9番1号

※2019年5月1日レコードブック厚別開設。
2020年3月21日より取組を開始します。

3. 实施体制



構成要素	役割、責任及び権限
代表者	《社長 三神司》会社を代表し、会社業務の全ての執行を統括する - EA21環境マネジメントシステムの実施及び管理に不可欠な資源の提供、資源には、人的資源及び専門的な技能、技術並びに資金を含む - 環境経営方針の作成 - 環境管理責任者の任命 - 全体の評価と見直しの実施
環境管理責任者(MR)	《総務部長 村井弘幸》 - EA21に従った環境マネジメントシステムの要求事項の確立、実施、維持 - 代表者(社長)への実績報告を含む見直しのための報告 - EA21環境マネジメントシステムの運用実施 - 環境経営活動レポートの作成責任
事務局	《総務課 埴田奈津子》 - 環境管理責任者のサポート - 環境管理責任者の指示による文書・記録の作成 - 文書・記録の管理
各担当責任者	EA21環境マネジメントシステムの運用実施

4. 中期環境経営目標

項 目	単位	今年度 74期目標 (2019年)	1年後 75期目標 (2020年)	2年後 76期目標 (2021年)	3年後 77期目標 (2022年)
二酸化炭素排出量 ※排出係数 0.678 (kg-CO2/Kwh)	Kg-CO2	前年比▲1% 302,023.0	前年比▲1% 299,003	前年比▲1% 296,013	前年比▲1% 293,053
電力使用量	kWh	前年比▲1% 166,660	前年比▲1% 164,993	前年比▲1% 163,343	前年比▲1% 161,710
都市ガス ※1	m³	前年比▲1% 7,009	前年比▲1% 6,939	前年比▲1% 6,870	前年比▲1% 6,801
液化石油ガス使用量 ※2	m³	前年比▲1% 11.98	前年比▲1% 11.86	前年比▲1% 11.74	前年比▲1% 11.62
灯油使用量 ※3	L	前年比▲1% 3,862	前年比▲1% 3,823	前年比▲1% 3,785	前年比▲1% 3,747
ガソリン・軽油使用量 (1台当たり)	(L) /台	前年比▲1% 1.876	前年比▲1% 1,857	前年比▲1% 1,838	前年比▲1% 1,820
燃費 (1台当たり平均)	km/L	前年比+1% 11.94	前年比+1% 12.06	前年比+1% 12.18	前年比+1% 12.30
一般廃棄物排出量	m³	前年比▲1% 57.86	前年比▲1% 57.28	前年比▲1% 56.71	前年比▲1% 56.14
水使用量	m³	前年比▲1% 1,631	前年比▲1% 1,615	前年比▲1% 1,599	前年比▲1% 1,583
環境配慮商品の販売					
省エネ提案件数 ①提案件数 ②受注件数	件	①559 件 ②322 件	各部署設定 の合計	各部署設定 の合計	各部署設定 の合計
ミス・ロス削減による 環境負荷低減		「自工程完結」 管理思考によ り、ミスを最小 化する。	新年度方針 にて決定	新年度方針 にて決定	新年度方針 にて決定
石膏ボードリサイクル 100%	%	100%	100%	100%	100%
環境に関わるリフォーム提案	件	10 件	新年度 目標設定	新年度 目標設定	新年度 目標設定
化学物質使用量 (塗料)	-	目標設定なし	化学物質の使用量は少量の為目標設定はし ないが、適正に管理する。		

※1 札幌

※2 釧路・小樽

※3 札幌・函館は倉庫のみ

5. 環境経営活動計画

二酸化炭素排出量の削減

項目	活動内容	
電気使用量	昼休み・退社時・使用していない場所の消灯	通年
	事務所蛍光灯の照度調節	通年
	不要箇所の光源取り外し	通年
	事務所照明のLED化	通年
	融雪電力の節電	冬期 (7～11月除く)
	天井ヒーターのこまめな切替	冬期 (7～11月除く)
	トイレ便座のフタを閉める	通年
	トイレ便座ヒーター夏場(6～9月)OFF	夏期(6～9月)
	トイレ主電源、帰宅時OFF	通年
	トイレパネルヒーター・トイレジェットタオル禁止	通年
	使用しないパソコンの電源OFF	通年
	待機電力カット	通年
	電気ヒーターのこまめなOFF	冬期(12～3月)
	夏場・不要時の電気ポット使用削減	夏期(6～9月)
	コピー・FAX複合機を節電モードに保つ	通年
	電気温水器の温度調節 夏場OFF(6～9月)・冬場40℃(10～5月)	通年
	冷蔵庫にカーテンをつける	通年
ガス使用量 灯油使用量	冷暖房の温度設定 夏場28℃(6～9月)・冬場23℃(10～5月)	通年
	使用しない場所は冷暖房を止める	通年
	エアコンフィルターのこまめな清掃	通年
	シーリングファン・サーキュレーターで空気を循環し、エアコンの使用量を抑える。	通年
ガソリン・軽油使用量	テレマティクス導入	通年
	日報管理(走行距離)	通年
	暖機運転は最小限にする	冬期(12～3月)

一般廃棄物排出量の削減

項目	活動内容	
ゴミの分別	古紙類・空缶・ペットボトル・産廃に分別	通年
	リングプルリサイクル運動	通年
	ミスコピー・ミスプリントは裏面を利用する	通年
	両面コピーを使用する	通年
	図面・見積は、メールでやり取りをする	通年
	マイ箸の推進	通年

水使用量の削減		
項目	活動内容	
水使用量	食器洗いや手洗いの際、水を出したままにしない	通年
	洗濯の際の水位調節	通年
	蛇口をシャワーへ替える	通年
環境配慮商品の購入・販売		
項目	活動内容	
環境配慮商品の購入	トイレットペーパーはシングル巻きであること。 芯なしトイレットペーパーの使用。	通年
	文房具はリサイクル材を多く使用していること	通年
	窓付封筒のエコ化	通年
環境配慮商品の販売	省エネ・省資源等の商品の販売・PRを推進 環境配慮商品の販売	通年
そ の 他		
項目	活動内容	
ミス・ロスの削減による 環境負荷低減	「自工程完結」管理思考を採用し、ミスを最小化する。	通年
石膏ボードリサイクル	石膏ボードリサイクル100%	通年
環境に関わるリフォー ム提案	環境負荷低減に関わる提案	通年
化学物質使用（排出）量の削減		
項目	活動内容	
化学物質使用量（塗料）	化学物質の使用量は少量の為目標設定はしないが、適正に 管理する。（納品数と使用数の差異を確認）	通年

6. 環境経営目標と実績

当社における環境目標と実績は下記の通りです。(2019 年度 2019 年 3 月 21 日～2020 年 3 月 20 日)

73 期より平成 29 年度北海道電力の排出係数 0.678 を使用。

項 目	単位	73期実績 (2018年)	74期 目標数値	74期実績 (2019年)		結果
二酸化炭素排出量 ※排出係数 0.678 (kg-CO2/Kwh)	Kg-CO2	305,073.7	前年比 ▲1%	312,782.5	+2.5%	×
電力使用量	kWh	168,343	前年比 ▲1%	178,950	+6.3%	×
都市ガス※1	m³	7,080	前年比 ▲1%	7,147	+0.9%	×
液化石油ガス使用量 ※2	m³	12.1	前年比 ▲1%	6.1	▲49.6%	○
灯油使用量 ※3	L	3,900.7	前年比 ▲1%	3,511.6	▲10.0%	○
ガソリン・軽油使用量 (1 台当たり累計)	(L) / 台	1,894.6	前年比 ▲1%	1,840.4	▲2.9%	○
燃費 (1 台当たり平均)	km/ (L)	11.82	前年比 +1%	11.66	▲1.3%	×
一般廃棄物排出量	m³	58.44	前年比 ▲1%	51.78	▲11.4%	○
水使用量	m³	1,647	前年比 ▲1%	1,597	▲3.0%	○
環境配慮商品の販売						
省エネ提案件数 ①提案件数 ②受注件数	件	①518 件 ②291 件	①559 件 ②322 件	①483 件 ②265 件	①86.4% ②82.3%	×
ミス・ロス削減による 環境負荷低減	自工程の理解が不十分。詰めが甘く、曖昧な活動になっていた部分がある。		「自工程完結」 管理思考を採用し、ミスを最小化する。	部署ごとに多少の偏りがあるが、ミスは減少傾向にある。		▲
石膏ボードリサイクル 100%	%	—	100%	100%	100%	○
環境に関わるリフォーム提案	件	—	10 件	39 件	+29 件	○
化学物質使用量 (塗料)	—	—	目標設定なし	使用量が少なくデータは取っていないが、適正に管理している。		○

※1 札幌のみ

※2 釧路・小樽

※3 釧路・苫小牧・小樽 (札幌・函館は倉庫のみ)

7. 取組評価と次年度取組

評 価	次年度の取組
◆電力使用量の削減 目標未達成【+6. 3%】 函館と小樽は目標達成。函館はノー残業デーを設けスケジュールリングが上手く出来たことで節電につながった。小樽は昼休みの消灯を徹底。 本社・釧路・苫小牧は未達成。本社はホットタイムロングが44. 2%UPしたのが要因。倉庫屋根の凍結防止のため、冬季に継続的に電源を入れたため。事務所照明は4. 7%削減出来ている。釧路は12月に事務所増改築があり、工事業者の使用と新事務所の照明が増えた。雨水凍結防止のヒーター設置も増加要因。苫小牧は残業時間が増えたため増加。	前年1%削減。 釧路は倉庫人感センサーの位置変更を行う。エアコンをつける予定なので増加は否めないが、温度設定とフィルター清掃をこまめに行う。全社としては、当たり前のルール継続。消し忘れをなくし、使用していない場所の消灯を行うこと。更に残業削減に取り組み、使用量を抑える。
◆ガス使用量の削減 本社：目標未達成【+0. 9%】 釧路・小樽：目標達成【▲49. 6%】 本社はエアコン入替え時の試運転があったのと、猛暑の影響で6～7月に増加。残暑の9～10月も増加した。設定温度28℃にも限界あり。集中管理コントローラー機能を活用し、消し忘れの対処ができるようになったのは良かった。釧路は7月迄前年比▲13. 9%。増改築で8月よりガスの使用がなくなった。小樽は温度調節に気を配り、31. 8%削減。	前年1%削減。 釧路のガス使用量がなくなった分、全体の前年対比は減少する。 本社は、エアコンフィルターの清掃を引き続き行う。会議室使用後のエアコン消し忘れチェックを継続。残業削減に取り組み、使用量を抑える。
◆灯油使用量の削減 目標達成【▲10. 0%】 釧路・苫小牧・小樽すべて目標達成。釧路は新事務所により暖かくなったため。苫小牧はウォームビズに努めた。暖冬だったことも影響している。	前年1%削減。 気温に左右されるが、設定温度を守り実行する。ウォームビズの励行。
◆ガソリン・軽油使用量の削減（1台当りの使用量） 目標達成【▲2. 9%】 函館・小樽で目標達成。単発を抑え、極力まとめ配送を行ったことで削減できた。本社は0. 5%削減で1%削減には届かなかった。夏場は増加傾向にあったが、下期はほぼ減少。後半はコロナの影響で営業自粛も影響している。釧路は地方走行が増え増加した。苫小牧も配送量が増えたため増加。	前年1%削減。 ミス・ロスによる緊急配達・誤配達を減らす。まとめ配送を行う。今後も、効率良いルートで営業する。
◆燃費（1台当りの平均）目標未達成【▲1. 3%】 釧路・苫小牧・小樽で目標達成。安全運転・エコ運転を徹底した。本社と函館は未達成。	前年1%UP。 急発進・急ブレーキ、無駄なアイドリングを減らす。また、荷台チェック・空気圧チェックを定期的に行い、燃費を向上させる。
◆一般廃棄物排出量の削減 目標達成【▲11. 4%】 本社のみ目標達成。現場廃棄分がなかったことを考慮しても▲18. 3%と大幅削減。函館は前期と同じ数値。釧路は増改築で不要物の処分があった。苫小牧も分社化の前に倉庫内の不要物の見直しで排出量が増えた。小樽はシュレッダーのゴミ増加。	前年1%削減。 個々のゴミ分別の意識向上と、廃棄の際は細かくして容積を減らすこと。問題があれば事務局から注意する。また、増えた場合の原因追究を行い、改善する。

評 価	次年度の取組
水使用量の削減 目標達成【▲3. 0%】 本社・釧路・函館・小樽で目標達成。本社の増加は9～12月のみ。インフルエンザとコロナの影響でジアイーノをフル稼働しても減少した。釧路も増改築で工事の人の使用があった割には減少した。洗い物がなかったことや簡易トイレ併用で少なく済んだ。トリムイオンやジアイーノの余った水を手洗いや掃除に使用し、工夫している。函館は人員減少により減少。逆に苫小牧は人員増加によりUPした。	前年1%削減。 全社的に人員が増加するのでUPするのは間違いないが、新入社員・中途社員にはルールを周知すること。細かな日常生活での節水を継続。手洗い・食器洗い・洗濯の際の水位調節や、拭き掃除・窓掃除などで使用する水も調整しながら行う。
◆環境配慮商品の販売 省エネ提案件数 提案件数483件 目標未達成【86. 4%】 受注件数265件 目標未達成【82. 3%】	省エネ提案をグループ責任者会議の定例議題とし、共通認識を持ち「省エネを極める」 全社で提案件数599件・受注件数359件を目標とする。
◆ミス・ロス削減による環境負荷低減 部署ごとに多少の偏りがあるが、ミスは減少傾向にある。	引き続き「自工程完結」管理思考を採用し、ミスを最小化する。
◆石膏ボードリサイクル100% 環境に配慮し、100%リサイクルできるものを使用。	引き続き100%とする。
◆環境に関わるリフォーム提案 実績39件 目標達成【+29件】	目標45件。
◆化学物質使用量（塗料） 使用量が少なく、データは取っていないが、適正に管理している。（納品数と使用数の差異を確認）	引き続き適正な管理と、塗料のデータを取る。

8. 環境経営活動の取組記録

◆環境経営方針



環境経営方針の社内提示



2019 年 10 年継続記念

◆二酸化炭素排出量の削減



トイレジェットタオルの禁止



トイレ便座のフタを閉める



テレマティクスサービスで
社用車走行管理



事務所・倉庫照明のLED化

※釧路・苫小牧・函館・小樽

※札幌は一部（会議室・会長室・応接間・倉庫）



照明スイッチに担当者をつけて管理
（左：札幌）・（右：釧路）



エアコンスイッチにエリア担当者
をつけて管理（札幌）



設定温度を貼って管理
（苫小牧）



部署ごとにエアコンフィルターの
清掃を定期的に行っています。



シーリングファンを取り付け、
室内の温度を一定に保っています

◆一般廃棄物排出量の削減



裏紙の再利用



古紙の分別（古紙は専門業者へ）
部署ごとに配置



産廃の分別

◆水使用量の削減



節水表示
蛇口をシャワーへ変換



節水表示
トイレタンク（大・小の使い分け）

◆環境活動



リングブル回収運動（函館）
223個を函館市内小学校へ寄付



定期的に事務所周りの雑草刈り・ゴミ拾いを行っています
（札幌）

◆地震想定防災訓練 ※対応手順に基づき、年1回実施しています。



8/9 札幌 地震想定防災訓練（避難・消火）



(8/2 釧路 消火器訓練)



(8/6 小樽 消火器訓練)



(8/9 函館 消火器訓練)

◆AED講習 (苫小牧)



◆教育訓練 ※エコアクション21を環境経営QC活動に取り入れています

- ① 4月経営方針全社大会で方針発表
- ② 5月QCチームリーダー・部門長会議実施
- ③ 部署ごとに月1回のQCチーム会議



5/22 QCチームリーダー・部門長会議



部署ごとのQCチーム会議の様子



毎月活動内容を
メールで報告



事務局よりメールで情報発信。
社員とのコミュニケーションを図ります。

◆「なっとくガッ展 2019」開催 (2019. 6. 19～20)



◆オール電化・太陽光・LED照明のご提案



最高の技術をお客様にご提供します
※当社HPより

◆太陽光の設置（札幌）



札幌本社で設置している太陽光



モジュール設置

74期 年間総発電量 6,405Kwh → 4,342.6 kg-CO2 削減

9. 環境法規の遵守状況と関連事項

(1) 環境法規の遵守状況

環境法規の適用の有無に関しては、法規、条例を調査し、当社の事業活動の範囲から関連法則を抽出している。当社の事業活動に該当または関連している法律は、条例については、その規格の内容と要求事項並びに当社が実施すべき活動内容を記載した登録簿を作成し、これに基づいて当社の環境活動を実施している。

環境法規について違反はなかった。

(2) 環境法規等違反による訴訟の有無

環境法律等違反による顧客・地域からの訴訟は現在まで発生していない。

(3) 環境法則に関連した苦情・要望等の有無

顧客・地域・利害関係者からの環境関連の苦情・要望等の事例は現在まで発生していない。

10. 代表者による全体評価と見直し結果

2020年度環境活動計画について

- 分社・ホールディングスグループ体制への移行に伴い、環境活動はグループ全体の方針として取り組むこととする。
- 各項目を継続し、1%削減を目標とする。燃費は1%UP。
- ミス・ロス削減活動では、「自工程完結」管理思考を採用し、ミスを最小化する。
- 環境配慮商品提案をグループ責任者会議の定番議題とし、共通認識を持ち「省エネを極める」環境製品の提案・販売について、省エネ提案件数と受注件数を目標に取り入れる。
省エネ提案件数599件 / 受注件数359件
その他環境製品の提案販売に注力する。